

薬袋研究室の学生が参加している福島県いわき市豊間区が 「第38回 緑の都市賞 緑のまちづくり部門」 都市緑化機構会長賞受賞！

私たちが 2016 年にどんぐり交流会として参加・協力した、福島県いわき市豊間地区の復興まちづくり事業が「第 38 回 緑の都市賞 緑のまちづくり部門」を「津波防災緑地等の多重防衛による復興まちづくり」として受賞しました！ 隣接する薄磯区、そして福島県いわき建設事務所、いわき市、UR 宮城・福島司祭復興支援本部とともに受賞しました。

いわき市豊間地区には、震災の翌年以降継続的に復興のお手伝いや調査・研究の協力を薬袋研究室が行ってきました。その繋がりでも、何度か住居学科学生有志が現地を訪れ交流をしてきました。そして復興事業の一環として建設される防潮堤の緑化として、地元の山にあるどんぐりを東京で育て、育った苗を防潮堤工事で生まれる新たな緑地帯に植樹する会が行われました。2016 年 11 月 20 日に行われた植樹に私も参加し、東京と豊間の交流会という形で、赤坂の商店会や埼玉の尾山台団地住民の方とともに豊間復興商店街とよマルシェの見学・豊間区の住民の方と交流したことが懐かしく思い出されます。前年度の交流会で住民の方や東京の応援をしている人が自宅にどんぐりを持ち帰り、育てていた苗を持ち寄り、植樹

が行われました。私たち学生が育てた苗も沢山、植えました。」

「緑の都市賞」とは、緑の都市づくりに大きく貢献した団体や個人からの応募作品を毎年表彰し、緑豊かなまちづくりの普及と実現を目指して 1981 年に創設されました。豊間地区のまちづくり事業は、故郷の記憶を新たに作られるまちに残したい、という地域の方々の想いを受け、公園や緑地づくりへの市民参加により、地域の樹木を新たなまちに継承し、絆づくりに取り組んでいる点等が評価されたそうです。地域の樹木の DNA を繋ぐ緑を再生しようとして、地元の山のどんぐりの実生から苗を育てたこともポイントだったようです。

この度、豊間の復興まちづくりが緑の都市賞を受賞し評価されたことを嬉しく思います。交流会での出会いを忘れずに、これからも豊間と繋がりを持ち、震災の記憶を心に留め継承することをここに誓います。

居住環境デザイン専攻 4 年生
薬袋研究室 渡辺 弥子



豊間防災緑地風景 撮影：佐藤俊一